

動物に関する部首



虫は、“まむし(蛇)”の象形字です。蟲は、三つの虫の会意字で、虫類の総称です。今の“虫”はこの蟲の代用字です。音は中^{チュウ}。

蚊^{ブンブン}は、文文という羽音を表わす文と虫との形声字です。蚊帳^{ブンチャウ}(かや)。

蛔^{カイ}は、“腹の中を回り歩く虫”という意味の会意形声字です。蛔^{チュウ}虫。

螢は、あかりの意味の^ギと虫との会意形声字で、“あかりをともし虫”ほたるのことです。螢光燈。螢雪の功。

蟻^ギは、正義の意味の義と虫との会意形声字で、“秩序整然たる団体生活を営む虫”ありを表わした字です。「蟻集」は、ありのように密集すること。

蚕は、蠶が本字。潜む意味の^{セン}と虫との会意形声字で、“繭の中に潜む虫”かいこを表わしたものです。蚕はその略字です。天^{テン}は^{セン}潜のなまりです。また、人間の生活に役立つ絹を与えてくれる“天の虫”の意味にとることもできます。

蛮は、蠻が本字。糸がもつれるように言葉が乱れる意味の^{ラン}と虫との会意形声字で、“がやがやとやかましく鳴く虫”という意味の字です。南方の民族を蛮と言ったのは、彼らがおしゃべりでわからない言葉をやかましく話したところから名付けたものです。中国では、四方の異民族を「東夷西戎南蛮北狄」と言いました。わが国でもこれにならって、西欧人が南方からやって来なかったので、“南蛮人”と呼びました。また、“未開人”の意味に使います。野蛮。

恋は、戀が本字。糸がもつれたように、思慕の情が思うような言葉になって出ず、心が千々に乱れる、という意味の字です。俗に“いと(糸)し、いとしと言う心”と、しゃれて言いましたが、今の字体ではこれが言えなくて味気なくなりました。「変」も同じ構造の字です。

融^{チュウ}は、かまどの象形(鬲)の高と虫との形声字で、音が虫が変化したユウ。“物を煮てとがす”ことを表わした字です。“とける”。固形では通らないものも、液状になればするすると通るので、“とおる”意味

にも使われます。融合。融通。

牛

牛は、二本のつのを含む“うし”の頭部を象った象形字です。音はギョウ。

物^{フツ}は、牛と勿の形声字です。牛は家畜の中で最も大きく、庶民に取っては最も頼りになる財源なので、“もの(万物)”の代表になりました。植物。人物。「貨物^{モツ}」は呉音。

犇は、“牛の群れ”を表わした字です。わが国では、“ひしめく”という意味に使っています。

犧は、“りっぱ”という意味の義^ギと牛との会意形声字で、神に“いけにえ”として捧げる牛を表わした字です。犠牲。

牲は、“りっぱ”という意味の精^{セイ}の仮借である生^{セイ}と牛との形声字です。犧と合わせて用いられる字です。

特は、役所という意味の寺と牛との会意字で、“役所に飼われている牛”という意味の字で、“いけにえの牛”が本義です。特にりっぱな牛が選ばれるので、“とくに”という言い方が生まれました。犠牲という字ができてからは特は、本義には使われなくなりました。

犬(犾)

犬は、いぬの全身を象った象形字です。音はケン。「犾」は、犬の変形で、「犬扁^{いぬへん}」ですが、普通は「けもの扁」と呼ばれています。犬以外の動物をも表わしているからです。

狗は、せむしの象形の宀と犬と口との会意形声字で“小さい犬”を表わした字です。音は口(漢音はコウ、呉音はク)。

「羊頭を掲げて狗肉を売る」は、現代的に言うと、“レッテルは牛だが中味は鯨の肉”ということです。

狐は、コンコンという声を表わす瓜と犾との形声字で、“きつね”のことです。「狐媚」は、狐が人をだますように、上の人に巧みに取り入ることを言います。「虎の威を借る狐」どうも狐は評判が良くありません。

狼は、良^{ロウ}と犾との形声字で、“おおかみ”のことです。おおかみは恐ろしい動物なので、昔の人たちは「犬神様」と言ったり「大神^{おおかみ}」と言って敬遠しました。良^{ロウ}と呼ぶのも、これと同じで、敬遠して“良い犬”つまり狼と呼んだものと思われま^{ロウゼキ}す。「狼藉」は、狼の寝たあとが乱雑なので、物事の取り乱した様を言います。

獄は、二匹の犬と言との会意字です。犬がたがいに吠え合うように、“訴訟で、たがいに相手の非をそしりあう”ことを表わした字です。“訴え”が本義で、転じて“牢屋”の意味に使われます。監獄。地獄。

獣は、獣類の顔の象形である兽と、家畜の代表である犬との会意字で、“けもの”を表わした字です。音はジュウ。猛獣。怪獣。禽獣。

獲は、鳥を取る意味の隻と彡との会意形声字で、“猟犬を使って、えものを取る”ことを表わした字です。捕獲。獲得。

献は、獻が本字。虎の飾りのある鬲(融の項参照)と犬との会意字で、“犬を料理すること”を表わした字。“祖先のみたまやに物をそなえる”ことが本義です。奉獻。献納。また、「献金」「献立て」という使い方が生まれました。

然は、肉の意味の彡と犬と灬の会意字です。“犬の肉を火でやく”という意味の字です。「燃(もやす)」の本字ですが、後に、「偶然、漠然、泰然、悠然」という使い方が生まれたため、本来の意味を表わすのに、さらに火を加えて燃としました。音は、漢音がゼン、呉音がネンです。

狩は、守る意味の守と彡との会意形声字です。冬の展開期、草木の枯れた季節に、原野に火を放って行なう“かり”を狩と言います。国

土を守るための仕事なので狩と言うのです。春のかりは蒐、夏は苗、秋は獮。

獵は、獵が本字です。獵と彡との形声字で、“犬を使って鳥獣を追い捕える”ことを表わした字です。狩獵。獵師。

猛は、孟と彡との形声字で、“強い犬”を表わした字です。転じて、“強い”“たけだけしい”という意味に使います。猛獣。

独は、本字が獨。蜀と彡との形声字。犬は接触するとすぐけんかをするので、一匹ずつ離しておきます。それで“ひとり”の意味を表わしました。単独。独唱。

状は、本字が狀。冫と犬との形声字。冫は像の仮借で、“犬のすがた”が状の本義です。転じて、広く、“姿”“形”“有様”の意味になりました。

狂は、草が乱雑に茂る意味の王と彡の会意形声字で、“狂犬”が本義の字です。転じて、“気ががい”の意味になりました。音は犬(ken)と王(o)でキョウ(kyo)。狂乱。狂暴。

犯は汜濫の意味の匚と彡との形声字で、“犬があばれ回って人に害を与えること”を表わしています。転じて、人が目上に背いたり、法を犯す意味に使います。侵犯。犯逆。犯罪。

豕 豕

豕は、いのししやぶたの形を象った象形字です。音はシ。

家は、^{いえ}家の意味の宀と家との会意字です。豚は早くから、家畜として、多くの家で飼育されていたことが、この字の成り立ちから知ることができます。

豚は、いのししの意味の家と肉との会意字です。ぶたが、いのししの家畜として変化したものであることを表わした字です。

象は、^象象で、長い鼻のぞうの形を象った象形字です。音はゾウ。ゾウの意義は、「想像」の意味です。中国には象がないので、話として伝え聞き、あるいは絵により“想像”し、心にその形をえがいていました。

像は、人^亻と象との会意字です。中国人は象を実際に見ることはできません。心に想像するだけです。だから、“心にえがく形”を、人と象とで代表させた訳です。

豪は、高の意味の高^高(ゴウ)と家との会意形声字です。長い毛を高くそばだてる“山あらし”を表わした字です。この針のような毛には猛獣も恐れるというので、“強い”意味を表わします。豪勇。強豪。豪傑。

羊 羊

羊は、二本のつゝ、長いひげなどの特長をよく象った象形字です。音はヨウ。家畜の中でも、羊は最も優美で、性質も温和なので、「美」「善」などを表わすのに用いられています。

美は、羊と大との会意字で、美しい動物だが、とりわけ、肥えて大きな羊は見事なので、“大きい羊”で“うつくしい”という意味を表わしました。美女。美辞。美談。

善は、古体は^善善です。“りっぱな問答”という意味の字です。転じて、問答に限らず、広く“りっぱなこと”の意味に使われます。最善。善良。善行。

義は、“我を美しくする”という意味の、羊と我との会意字です。つまり、りっぱな人間として必要な資質に対して与えた“徳目”です。孟子は「仁義あるのみ」と言いました。この道を実行できる人間が、最高の人間だと言うのです。音はギですが、これは“よろしい”という意味の^ギ宜と同じ言葉です。

群は、“羊の君”で、“羊のボス”という意味の字です。羊はむれをなしていますが、そのボスが群です。転じて、“むれ”の意味になりました。群羊。群衆。群雄。

羚は、りっぱな意味の令と羊の会意形声字です。羊に似て、羊よりも大きく、姿や毛並みの美しい“かもしか”を現わした字です。

着は、羊の部首の字ではありません。著が変化した形です。著は、第一部の者の項で説明しました。

鳥 鳥 (隹)

鳥は、長い尾のとりの形、**隹**は、短い尾のとりの形を象った象形字です。しかし、部首としては、鳥も隹も同じく、一般的な“とり”の意味に使われています。

鳩は、クークーと鳴く音を表わした九と鳥との形声字で、“クークーと鳴く鳥”、つまりはとを表わしています。呉音はク、漢音はキュウ。鳩首(首を集める→相談すること)。

鳴は、鳥と口との会意字で、“鳥のなく”ことを表わした字です。音はメイ。転じて、“なる”“ならず”意味にも使います。共鳴。雷鳴。鳴弦。

鶯は、ガーガーという鳴き声を表わした我と鳥との形声字で、“鶯鳥”のことです。

鷓は、コケッコウという鳴き声を表わした奚と鳥との形声字で、“に

わとり”のことです。「鷓口となるも、牛後となるなかれ」「鷓鳴狗盗」などの故事があります。

鶴は、カッカツという鳴き声を表わした雀と鳥との形声字で、“つる”のことです。「鶴首」は、首を長くして待ち望むことです。

雀は、“小さい**隹**”という意味の字で、“すずめ”のことです。「雀躍」は小踊りして喜ぶことです。燕雀いづくんぞ鴻鵠の志を知らんや(小人に大人の心がわかるものか)。門前雀羅(訪れる人がいないので雀取りの網が張れるほどだ)。

雄は、宏の意味の宏と隹の会意形声字です。体の大きくてりっぱな“おんどり”を表わした字です。転じて、「雄大」「雄壮」などの意味に用います。また、「英雄」。音は宏が変化してユウになりました。

雌は、同音の妻(siさい)の仮借である此と隹とで、“妻鳥”と呼んだものです。“めんどり”が本義で、広く生き物の“めす”の意味に用いられます。

雜は、雜が本字です。𠂔は衣の変化した形で、この字は古くは襍でした。これがずれて雜となったものです。“いろいろな布を集めて作った衣類”という意味の、集と衣との会意形声字です。音は集が変化したソウ。ザツは慣用音です。雑言。雑草。

集は、**隹**が本字です。木の上に鳥が“あつまっている”という意味の会意字です。音は聚^{シュウ}です。

雅は、カアカアという鳴き声を表わした牙^カと隹との形声字で、“からす”を表わした字です。からすは“反哺”と言って、餌を取ることができなくなった親鳥に餌を口移しに食べさせる孝鳥だと言われています。その親子の情愛が“正しく”“ゆかしい”というので、“正しい”“ゆかしい”という意味に用いられるようになり、からすは「鴉」と書き分けるようになりました。典雅。優雅。雅量。

離は、美しいという意味の麗と同音の离^リと隹との形声字で、鶯の一種である麗と呼ぶ鳥の名が本義です。人里離れた島に住むので“はなれる”意味に用いられるようになりました。

隻は、又(手)と隹との会意字で、“鳥を一羽手に入れた”という意味の字です。“一羽の鳥”が本義です。二羽の鳥は「雙(今は略して双)」と言います。隻手(片手)。隻眼。転じて、水鳥になぞらえて、舟を「一隻」「二隻」と数えるようになりました。

奪は、大と隹と寸(手)の会意字です。奮は“大鳥”の意味ではなくて、鳥が翼を大きく広げる意味の字です。手に入れた鳥が羽ばたいて逃げるのが奪の本義です。音は「脱^{ダツ}」で、本来は脱と同音同義の字

です。今は“うばう”の意味に用います。奪回。強奪。

奮は大と隹と田の会意字で“鳥が田んぼから羽ばたいて飛び上がる”意味の字です。飛び立つ時の勢いの盛んな有様から、“ふるいたつ”意味を表わしました。奮起。発奮。興奮。

馬 馬

馬は、馬の全身を横から象った象形字です。漢音はバ、呉音はマです。国語の“うま”は、呉音のマを“(う)ま”と発音したもので、純粹の日本語ではありません。“ん”を“(う)ん”と発音するのと同じです。馬については、「馬耳東風(馬の耳に念仏)」「馬脚を現わす」「馬鹿」などの故事があります。

馱は「馱」が本字。“人を乗せて運ぶ馬”を表わした、人の意味の大と馬との会意字です。転じて、“荷物を運ぶ馬”「馱馬」の意味になり、さらに転じて“荷物”その物を言うようになりました。荷馱。馱賃。また「馱馬」は、“下等な馬”の意味に転じ、「馱句」「馱じゃれ」などの使い方が生まれました。

駒は、狗と同じく、“小さい”意味の句と馬との会意形声字です。“若い小馬”を言います。“こま”と言うのは、“小馬^{こま}”または“子馬”という意味です。わが国では、広く“馬”の意味に使われています。また、

「将棋の駒」とも使われます。

駢は、並ぶ意味の并と馬との会意形声字で、“二頭立ての馬車”のことです。漢文で、四字句と六字句とをうまく並べた名調子の文を「駢儷文」と言います。

駟は、“四頭立ての馬車”です。「駟馬にむちうつ」とは、高位高官にのぼり、得意な様を言います。「駟も舌に及ばず」は、言葉を慎重にせよ、という教訓です。

驚は、つつしむ意味の敬と馬との会意形声字で、“馬が暴れないようにしっかりと手綱をおさえる”という意味の字です。馬はからだの大きいのに似合わず、驚きやすいので、“おどろく”意味に使われます。“おどろく”の本字は「駭」です。驚は、漢音はケイ、呉音はキョウです。驚天動地。

騷は、蚤(のみ)と馬との会意形声字で蚤のために、馬が体を木にこすりつけたり、体をぴくぴく動かしたりして“さわぐ”ことを表わした字です。“動く”“さわぐ”が本義。騷動。騷々しい。「噪」と同音同義。

蚤は、蚤が本字。𧈧は、爪(つめ)を表わした指事字で、かゆい所をかく意味を表わしています。蚤は、“人をかゆくさせる虫”という意味の字です。「搔」は、“かく”という意味の字です。

貝

貝は、二枚貝を正面からみた形を象った象形字です。海から離れた、昔の中国では、貝の装飾品は、手に入れがたい貴重品でした。美しく磨いた貝は宝石に匹敵する価値がありましたので、部首としては“財貨”の意味に使われます。また、物々交換をする時代では、軽くて小さい貝は、貨幣的な存在でした。音はパイ。

「責」「貨」「賞」「貸」「購」「賠」など、すでに第一章に出て来た字がかなりあります。

貯は、貝と宁との会意形声字です。壮丁、丁年の丁は成熟の意味の字で、家にお金の充実することが宁です。“家にお金を充実させること”が貯です。今は広く、“物をたくわえる”という意味に使います。貯水。

財は、貝と才との会意形声字です。才は木が根をわずかに張り始めた形を表わした字で“わずか”“始め”という意味の字です。これから生長してどんな大木になるかわかりませんので、“将来に発展する能力を秘めた素質”という意味に使われます。財は、いろいろな能力を発揮させ成功させる働きを秘めたものであるから“才”というのです。財貨。資財。

貴は、**𠂔**と貝との会意形声字です。**𠂔**は**𠂔**の変形したもので、人が両手を左右に広げた形です。貴は、両手を広げたほども財貨を持っている、という意味の字で、“身分の高い人”を表わした字です。貴族。貴重。貴賤。

資は、次と貝の会意形声字です。“命の次に大切なお金”という意味の字です。財の所で述べたように、仕事の“もとで”にするものなので、「資本」「資金」などと使います。

買は、𠂔と貝(バイ)との会意形声字です。𠂔は𠂔で、網の本字です。網で鳥を一度にたくさん取るように物をごっそりと手に入れることを意味しています。“お金と交換に物をごっそりと手に入れる”、つまり“かう”ことです。

販は、“物を買って入れて反対にそれを売る”という意味の字で、貝と反との会意形声字です。“買入れた物を売る”ことですから、あきないとして、“物を売る”ことです。販売。販路。

賛は、賛が本字です。𠂔は“進める”という意味の字で、訪問時の“進物”が本義の字です。受け取った者は、開いて見て“ほめる”のが礼なので、“ほめる”意味になりました。賛美。賛嘆。書画のすみに「賛詞」を書いたものを「賛」と言います。「自画自賛」は“身ほめ”“手前みそ”の意味によく使われる言葉です。音は𠂔が変化してサン。

讚は、“^ほ賛めて言う”という意味の、^{サン}賛と言との会意形声字です。賛と全く同じに使いますので、当用漢字からはずされました。

賀は、お祝いの言葉を述べた上に財貨を贈るという意味で、^カ加と貝との会意形声字。“言葉に加えるに財貨”で、相手に祝意を表するのが賀ですが、今は単に「賀詞」を述べるだけでも賀です。祝賀。年賀。

加は、力の不足を言葉で補う意味の字で力に口を“くわえる”ことです。

賃は、“人としての努め(任)に対して支払われるお金”という意味の字で、任と貝との会意形声字です。音は任が変化して^{ジン}チンになりました。労働者が、その労働の報酬として受ける金銭を「賃金」と言うのは本義に合っています。運賃。家賃。駄賃。

任は、壬と人との会意形声字です。壬は¹で、人のおなかに胎児のいる事を表わした指事字で、音は人(漢音はジン、呉音はニン)。妊の本字です。壬(妊娠)は、婦人の“人としての務め”ですから、人と壬とで“つとめ”という意味を表わすことができます。任務。責任。また、妊娠は、婦人だけに“まかせられた”ものですから、“^{まか}任せる”という意味にも使われます。委任。任意。

則は、“貝に刀で傷をつけてしるしとする”という意味の会意字です。“しるし”が本義で、それは“標準”とするものであるから、「法則」「規則」という用法が生まれました。

賊は、**賊**が変形したもので、**則**と**戈**との会意形声字です。“標準、法則を傷つけ破る”という意味の字です。“国を乱す者”が本義で「乱臣賊子」という使い方が本義です。転じて人を殺したり、物を盗んだりする無法者をも言うようになりました。

貧は、**分**と**貝**との会意形声字で、“財産を分割する”という意味の字です。お金が乏しくなるので、“まずしい”こととなります。「貧乏」「貧困」。音は**分**が変化して**ヒン**。また「貧血」「貧弱」というようにも使われます。

費は、払うという意味の**弗**と**貝**との会意形声字で、“お金を支払う”という意味の字です。“ついやす”こと。費用。消費。旅費。

貢は**工**と**貝**との会意形声字です。工は工芸品、貝は土地の産物を意味します。“地方の工芸品や産物を朝廷に奉獻すること”を貢と言います。朝貢。貢物(みつぎもの)。「貢献」は、世のためになる仕事をするを言います。

貞は、卜(うらない)と**鼎**の形声字で、“国運をうらなう”のが本義の

字です。鼎と貝と、古体では形が似ているので、誤って貝になったものでしょう。昔は、大事を決する時は、亀の甲を焼いて、そのさけめによって判断しました。これを**亀卜**と言います。天下を安定させる大切な行事なので、貞が定(さだまる)または正(ただしい)の意味に使われるようになりました。

負は、人の意味の**人**と**貝**との会意字で、“人が財産を頼みに、気負っている”ことを表わした字です。“たのみにする”“気負う”が本義の字で、転じて、“背負う”、さらに転じて“背を見せる(まける)”意味にも使われるようになりまし。自負。負担。勝負。

貫は、貝をひもで通した形の**母**と**貝**との会意形声字で、“つらぬき通す”または“金銭”の意味に使われます。貫通。銭貫。また、金銭の単位名、重さの単位名にもなりました。

貿は、**卯**と**貝**との会意形声字です。卯はで、物を均等に分けた形です。二つの物の価値がひとしいことを意味する部首です。貿は、お互いが持つ品物を、価値が等しいように交換しあうことを意味した字です。“物々交換”が本義です。今では外国と品物の売買することを「貿易」と言います。

賓は、字形が客と同じ意味の**宀**(**ヒン**は臨の意味の言葉)と**貝**との

会意形声字。少は又と同じく、“足”の意味の部首(足の項参照)です。どちらも、“家(宀)に訪れ来る(足)人”を表わしています。“贈り物を持って訪れる客”が賓です。一般には、身分の高い場合は賓、身分の低いのを客、と使い分けているようです。賓客。主賓。

賢は、堅の意味の^{ケン}叵と貝との会意形声字です。貝は、財産ばかりでなく、地位の尊貴なことをも意味します。“財産や地位を堅く守る人”という意味の字です。転じて、広く才知徳行にすぐれた人を言うようになりました。賢明。聖賢。

賦は、音は^フ付です。役所から納付するように割り付けられた財物を“納付”することを表わした言葉です。軍役に徴発されることをも含めて賦という字になったのかと思われれます。つまり、国民としての二つの義務(軍役と租税)を表わす武と貝との会意字と見ることができます。音は、納付の付によったものと考えられます。「月賦」は、月々に代金を取り立てる所から生まれた名称です。

頼は、頼が本字です。^{ラツ}刺と貝との会意形声字です。刺は、束を刀で切りほくことです。束は、木を保存することを意味し、刺は、それを消費することを意味します。頼は、貯えておいた金を消費することを意味しています。財貨の威力を“たのみ”にして、どんどんと使うこと

で、“たよりにする”“たのむ”という意味に使われます。依頼。信頼。